



写真1
北大式土器(古)



写真2 北大式土器(新)



写真3
マリア像のペンダントトップ



写真4 鬼子母神のメダル

は10枚以上採取されました。3cm×2cmの銅製メダルです。銅のほか、金と銀のメッキが施されたものがあります(写真4)。片面に着物の老女と漢文。その反対側にも漢文が書かれています。調べてみると漢文は陀羅尼品という経文の一節で、この点から女性性は「鬼子母神」だと思われます。錆が激しいので、長い間浜にあったのでしょうか。何かの行事にともなうて、残されたのでしょうか？

(石橋孝夫)



石狩市学芸協力員
石橋孝夫 Takao Ishibashi

専門分野は考古学と石狩史。石狩紅葉山49号遺跡の発掘を手がけたほか、縄文時代から江戸時代に至るサケ漁の方法や文化について研究する。

石狩浜は漂着物の季節

春から夏の石狩浜は漂着物の季節です。冬の間の西風や北風によつて流れつく海の漂着物。また川から雪解け水によつて運ばれた漂着物も多数みられ、採集(ピーチコミング)には良い季節です。この時期の定番は琥珀、ガラスの浮き、近世陶磁器片などですが、今年はそれほど多くなく、代わりに、いくつか珍しい漂着物が採取されました。後で書くように厳密には流れ着いたのかどうか疑問なものもありますが、一応漂着物として紹介します。

最初は2点の土器片です。この土器片は器の口の部分で、木の棒を突き刺してつけた簡素ですが特徴のある模様があります。これは北大式土器(写真1・2)という西暦5〜7世紀に使われていた土器ですが、新旧があり、石狩浜で見たのは初めてです。市内ではこのタイプが出土する遺跡は少なく、貴重な資料です。今のところ石狩川沿いでこの土器が出る遺跡は2カ所で、八幡町あるいは生振

の遺跡から流れ出たのでしょうか。次に落としたか、意図的に捨てられた可能性がある漂着物。しかも、いずれも信仰に係るメダル類です。最初はマリア像のついたペンダントトップ(写真3)で、長さ2cmと小さなものです。銀製と思われ、単なるアクセサリとは趣も違うようです。これとは別に2点、宗教名や教えなどが書かれた金属製のペンダントトップも採取されました。次は数年前からほぼ同じ場所



春の石狩浜

ERIS「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。